特許協力条約

今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条) [PCT36 条及びPCT規則 70]

出願人又は代理人

の書類記号 FP04-0274-00

-	REC'D	0	1	SEP	2005
	WIPC				PCT
	VVII		_		

国際出願番号 PCT/JP2004/012649	国際出願日 (日. 月. 年) 01. 09. 2004	優先日 (日.月.年) 10.09.2003				
国際特許分類(I P C) Int.Cl. ⁷ C07D 209	/42	·				
出願人(氏名又は名称) エーザイ株式会社						
1. この報告書は、PCT35条に基づき 法施行規則第57条(PCT36条)の	(日. 月. 年) 01. 09. 2004 (日. 月.年) 10. 09. 2003 (日. 月.日) 10. 09. 20					
2. この国際予備審査報告は、この表紙	を含めて全部で3 ページ	· ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・				
3. この報告には次の附属物件も添付さ a. 「 附属書類は全部で						
「 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙(PCT規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)						
	「 第 I 欄 4 . 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの 国際予備審査機関が認定した差替え用紙					
b. 「 電子媒体は全部で		(領子媒体の新籍 巻を示す)				
	ように、コンピュータ読み取り可能か形式					
ブルを含む。(実施細則第80	2 号参照)					
4. この国際予備審査報告は、次の内容	を含む。	·				
▼ 第1棚 国際予備案を対	・ 場告の基礎					
第11概 優先権	ra v contro					
	生又は産業上の利用可能性についての国際	予備審査報告の不作成				
「 第IV欄 発明の単一性の	の欠如					
▼ 第V欄 PCT35条(2)	に規定する新規性、進歩性又は産業上の利	引用可能性についての見解、それを葼付				
第VI概 ある種の引用で 第VI概 国際出願の不信						
第四個 国際出願の不同 第四個 国際出願の不同						

国際予備審査の請求也を受理した日 03.09.2004 名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区設が関三丁目4番3号

国際予備審査報告を作成した日 18.08.2005

特許庁審査官(権限のある職員) 中木 亜希 電話番号 03-3581-1101 内線 3492

第1相	衆告の基礎		
1. 5	の国際予備審査報告は、下記に	示す場合を除くほか、	国際出願の言語を基礎とした。
	この報告は、	語による翻訳文を基	一種とした。
	それは、次の目的で提出され		5.
	「 PCT規則12.3及び23.1(PCT規則12.4にいう国際	b)にいう国際調査	
	▶ PCT規則12.4にいう国際▶ PCT規則55.2又は55.31		
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ことう国际了個番金	
2. こ た <i>差</i> 程	この報告は下記の出願書類を基礎 孝え用紙は、この報告において「	とした。 (法第6条 出願時」とし、この	(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出され 報告に添付していない。)
K	出願時の国際出願書類		
Г	明細書		
	第	ページ	出願時に提出されたもの
	第		付けで国際予備審査機関が受理したもの
	第	ページ*、	付けで国際予備審査機関が受理したもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの
Г	請求の範囲	•	
-	第	129	出層時に提出されたもの
	第		PCT19条の規定に基づき補正されたもの
	第	項*、	PCT19条の規定に基づき補正されたもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの
	第	項*、	付けで国際予備審査機関が受理したもの
г			
,	lent inn	~°22 / 1001	山岡味に相当されたとの
	第	ページ/図、	出願時に提出されたもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの
	第	ページ/図*、	一 付けで国際予備審査機関が受理したもの
-	配列表又は関連するテーブル		
,	配列表に関連するオーンル		
			•
з. Г	補正により、下記の書類が削	除された	
		DI C 4 07Ca	
	万 明細書 第二		ページ
	「 請求の範囲 第_ 「 図面 第		
	「 図面 第_		ページ/図
	配列表に関連するテープ	ひこと) ル(且体的に記載 す	ステレ)
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	/* (X(T-43)=454%)	
4.	この報告は、補充棚に示した	ように、この報告に	添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超
	んてきれたものと認められる	ので、その補止かさ	れなかったものとして作成した。 (PCT規則 70.2(c))
	」 明細密 第一		ページ
	請求の範囲 第_		
•	「 図面 第_	7 7 1.1 *	ページ/図
			ること)
		· Ochhaichtai	w-c/
			1
•			
* 4.	に該当する場合、その用紙に "	superseded"と記入	されることがある。

特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP2004/012649

見解			
新規性 (N)	請求の範囲	1-22	有
	請求の範囲		
進歩性 (IS)	請求の範囲	1-22	
	請求の範囲		
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-22	·
	請求の範囲		

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

- 1. JP 2000-247949 A
- 2. WO 02/036117 A1
- 3. JP 9-316053 A

請求の範囲1-22に対して

請求の範囲1-22に係る発明は、文献1-3に対して新規性及び進歩性を有する。

文献1には、実施例1に本願明細書の実施例1Bで得られる結晶が記載されているが、他に、N-(3-シアノ-4-メチル-1H-インドール-7-イル)-3-シアノベンゼンスルホンアミド(以下、「本願化合物」という。)の結晶化については記載されていない。

文献2及び3には本願化合物と類似の化合物が記載されている。

そして、文献1-3の記載及び本願出願時の技術常識を考慮しても、本願化合物の特定の結晶形であるC晶及びA晶が当業者にとって自明であったとは認められず、また、本願のC晶及びA晶は公知の結晶に比較して光に対する安定性が高い(本願明細書の試験例2を参照。)という有利な効果を発揮するものである。